

5歳児の思考力発揮を促す保育者の援助について

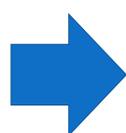
○杉田美穂・小野塚若菜#（ベネッセ教育総合研究所）

1. 問題と目的

- 子どもの発達や学びの連続性の保障のため、**幼児期から児童期の資質・能力の育成**をつなぐカリキュラムの編成や実施が求められている（中央教育審議会,2023）¹。
- 杉田・小野塚（2023）²は、小学校の学習指導要領から抽出された19の**思考スキル**（泰山ほか,2014）³の発揮が**5歳児の遊び**に見られることを明らかにした。※右図参照
- 幼児期の論理的な**思考の芽生え**を促すために、認知プロセスの意識化が大切（大宮,2013）⁴であることや、人との関係性が大切（内田・津金,2014）⁵とされるが、その方法は十分に明らかではない。

思考スキル	
多面的にみる 変化をとらえる 順序立てる 比較する 分類する 変換する 関係づける 関連づける 理由づける 見通す 抽象化する 焦点化する 評価する 構造化する 推論する 具体化する 応用する 広げてみる 要約する	多様な視点や観点にたって対象を見る 視点を定めて前後の違いをとらえる 視点に基づいて対象を並び替える 対象の相違点、共通点を見つける 属性に従って複数のものをまとまりに分ける 表現の形式（文・図・絵など）を変える 学習事項同士のつながりを示す 学習事項と実体験・経験のつながりを示す 意見や判断の理由を示す 自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する 事例からきまりや包括的な概念をつくる 重点を定め、注目する対象を決める 視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見もつ 順序や筋道をもとに部分同士を関係づける 根拠のもとについて先や結果を予想する 学習事項に対応した具体例を示す 既習事項を用いて課題・問題を解決する 物事についての意味やイメージ等を広げる 必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする

出典）泰山裕（2014）「思考力育成を目指した授業設計のための思考スキルの体系化と評価」



5歳児の思考力を思考スキルの発揮と定義し、その発揮を促す保育者の環境構成や援助について明らかにする。

そして保育者が現場で活用しやすいものになりたい！

2. 方法

保育者の環境構成と援助を明らかにし、保育現場で活用しやすいものにする方法として、①～③の手順で「**観点リスト**」を作成した。

- 5歳児の遊びに関する35の**活動例**について、子どもの思考スキルの発揮が想定される場面（杉田・小野塚, 2023）における保育者の環境構成や援助を抽出した。その際、保育者が19の**思考スキル**のうちどのスキルの発揮の促しを企図したかを想定し、タグ付けした。
- タグ付けがされた環境構成・援助を思考スキル別に集約し、汎用的な**環境構成と援助例**を作成した。
- 保育者と発表者により、保育現場における理解のしやすさを確認し「**観点リスト**」として一覧化した。

3. 結果と考察

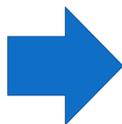
- 5歳児の思考スキル発揮を促す環境構成と援助例を「**観点リスト**」として整理した。 ※一部抜粋

思考スキル	5歳児の活動例	保育者の環境構成と援助例
多面的にみる 多様な視点や観点にたって対象を見る	<ul style="list-style-type: none">身近な人との関わりのなかで、「相手はどう思うだろう」とほかの人の思いを想像する。自らが経験し、興味をもったことについて、もっと詳しく知りたくなり、図鑑で調べる。	<ul style="list-style-type: none">子どもがこれまでの経験を思い起こして自分の気持ちを十分に話すなかで、自分とは異なる気持ちや考えがあることに気づくような声かけをする。子どもの興味や発想に気づき、それらを広げたり深めたりできるような環境を用意して見守る。
見通す 自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する	<ul style="list-style-type: none">先の活動を見すえた行動をとったり、計画したりする。身近な事象や事柄について、次はこうなるのではないか、または、なっしてほしいと予想をする（根拠は感覚的なものであることが多い）。身近な人を喜ばせようとして計画をしたり、分かりやすいように伝え方を工夫したりする。	<ul style="list-style-type: none">日頃の生活のなかで、子ども自らが見通しをもてるような関わりをする。子どもが関心をもったことについて見通しがもてるように援助をし、納得がいくまで取り組めるようにする。身近な人を思いうかべ、その人が嬉しい気持ちになる関わり方を考えられるようにする。

観点リストを使った保育者の声



「今まで経験的に行っていたことの意味が明確になった」
「保育計画の大切さが改めて理解できた」
「経験の浅い保育者にとっては援助のヒントになる」



保育者が、子どもの思考力を発揮する姿に気づき、思考力の発揮を促す援助を見出す一助になる可能性が示された。

4. 研究の限界点

- 保育者の環境構成や援助が、実際にはどの程度子どもの思考スキルの発揮を促したのか、明らかではない。
- 資質・能力の育成を小学校段階にどのように接続するかの議論が十分ではない。

【参考文献】

- 中央教育審議会（2024）「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」
- 杉田美穂・小野塚若菜（2023）「遊びのなかの言葉をてがかりにした5歳児の思考力発揮の分析」日本保育学会第76回大会
- 泰山裕ほか（2014）「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討：学習指導要領とその解説の分析から」日本教育工学会論文誌日本教育工学会論文誌, 37(4) 375-386.
- 大宮明子（2013）「幼児期からの論理的思考の発達過程に関する研究」風間書房
- 内田伸子・津金美智子（2014）「乳幼児の論理的思考の発達に関する研究 自発的活動としての遊びを通して論理的思考力が育まれる」保育科学研究 第5巻 131-139